

38. TRAb 測定誤差の検討

笹隈富治子 清水 孝郎 和田 弘子
森井 卓郎 江原 学
(大阪府成人病セ・臨床検)
長谷川義尚 (同・RI)

[目的] TRAb が異常低値を示した場合、血清中に抗 TSH 抗体が存在する可能性があり、患者の標識ウシ TSH 非特異結合率 (NSB) を測定して補正することが提案されている。今回、測定キットに添付されている陰性コントロール (NC) のロットにより、TRAb 測定値が影響を受けることを観察した。そこで、甲状腺疾患患者 (A 群)、健常者 (B 群) の血清について標準法および補正法で TRAb を測定し、測定値の変動要因について検討した。

[方法] TRAb は TRAb コスミック II で測定した。標準法では NSB (N) を NC で求め、補正法では NSB (N) に加えて NSB (P) を被検血清で測定した。NSB

(N) はロット #834 で 2.6%、#836 で 5.2% であった。

[結果] TRAb (標準法) はロット #834 で測定すると #836 で測定した値より 4 (%) ほど低くなり、TRAb 陽性率は低下した (基準値 10% 以下で判定)。補正法では逆に #836 の方が 3 (%) ほど高値を示した。NC のロットによらず、A 群では補正 TRAb が標準 TRAb より高値となる症例が多かった。補正 TRAb と標準 TRAb の測定値の差は NSB (P) と良好な相関を示した。NSB (P) は TSH を添加すると (最終濃度 100 mU/ml) 両群とも低下した ($p < 0.001$)。しかし TSH 添加後も A 群の NSB (P) は B 群より高値を示す症例が多かった ($p < 0.001$)。ロットごとに基準値を求めて TRAb 陽性率を判定すると、ロット間の差は少なくなり、陽性率も増加したが、補正法でもロットによる影響を除くことはできなかった。

[考察] NC のロットにより NSB が異なり、TRAb 値が影響を受ける。TRAb 陽性の判定にも注意が必要である。甲状腺疾患患者では健常者より NSB (P) が高値であり、補正法を用いる必要がある。